

メバチ 中西部太平洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同休事務局 (SPC)

最近の動き

中西部太平洋における本種の最新の資源評価は SPC の専門家グループにより 2014 年に行われた。WCPFC 科学委員会は同年 8 月にこの結果を検討して、管理措置を勧告し、2015 年に再度、同様の勧告を行った。2015 年 12 月の WCPFC 年次会合においては、2013 年に合意された保存管理措置の見直しが議論されたが、2014 年に引き続き、継続審議となった。

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 2.0 m・200 kg
- 寿命：10～15 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身や缶詰原料

漁業の特徴

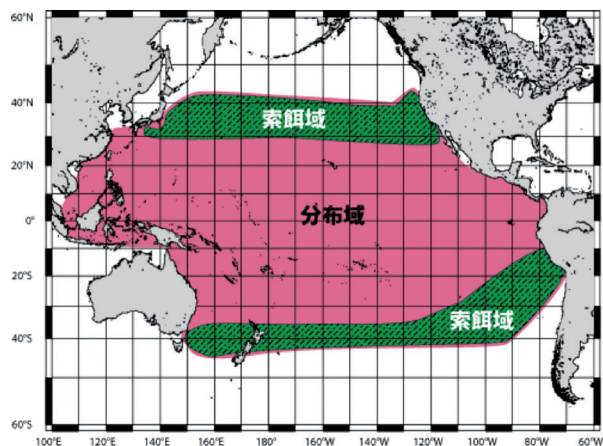
本種の主要な漁業はやや深い水深帯（100～250 m）をねらうはえ縄と、表層付近をねらうまき網及び竿釣りである。やや深い水深帯では主に 100 cm 以上の中・大型魚が漁獲され、表層では 30～100 cm 未満の小型魚が漁獲される。従来は、はえ縄の漁獲が体勢を占めたが、1990 年代から集魚装置（FAD）を用いたまき網操業による小型魚の漁獲が急増し、資源に大きなインパクトを与えている。はえ縄漁獲物の多くは我が国市場向けの刺身用だが、まき網漁獲物は缶詰原料となる。はえ縄漁業国は日本、台湾、韓国、中国等であり、主要なまき網漁業国は米国、台湾、韓国、日本及び太平洋島諸国などである。

漁獲の動向

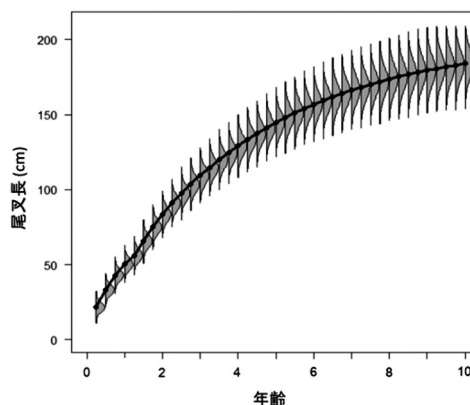
主要な漁業はまき網とはえ縄であり、主に赤道域で漁獲されているが、はえ縄は亜熱帯域（例えば日本東方及びオーストラリア東方沖）でもある程度漁獲している。また、フィリピンとインドネシアの小型まき網やひき縄等によって小型魚が多く漁獲されている。中西部太平洋におけるメバチの漁獲量は 1970 年代初頭には 5 万トン前後から増加し、2000 年代初頭には 15 万トンに達した。2014 年の漁獲量は 16.1 万トンであった。

資源状態

2014 年に SPC の専門家グループにより統合モデル（Multifan-CL）を用いて資源評価が行われた。近年（2008～2011 年平均）の産卵資源量は 32.5 万トン、近年は限界管理基準値付近（SB/SB_{F=0}=0.20）にあり、2011 年は 0.16 で、現状は乱獲状態にあるとされた。MSY=10.8 万トンであり、近年（2008～2011 年平均）の漁獲圧は MSY レベル以上（F/F_{MSY}=1.57）で最近年（2014 年）の漁獲量は 16.1 万トンであり、現在（2008～2011 年）の漁獲は過剰漁獲の状態にあるとされた。1975 年以降の経年的な産卵資源量指数の変動から、最近年は歴史的な低位にあり、若干の減少傾向を示しているため、資源水準、動向は低位、減少と判断できる。



太平洋におけるメバチの分布



中西部太平洋におけるメバチの年齢と成長

管理方策

WCPFC は、メバチ・キハダ・カツオの保存管理措置として、以下を導入している。現在の措置は 2013 年に合意された。2015 年 12 月の年次会合において措置の見直しが議論されたが、2014 年に引き続き、継続審議となった。

(a) まき網漁業（熱帯水域）

- ・FAD 操業集魚装置の使用の段階的な規制強化（2014～2016 年）
- ・公海における FAD 操業集魚装置使用の原則禁止（2017 年から）

- ・島嶼国以外のメンバーが保有する隻数の凍結

(b) はえ縄漁業

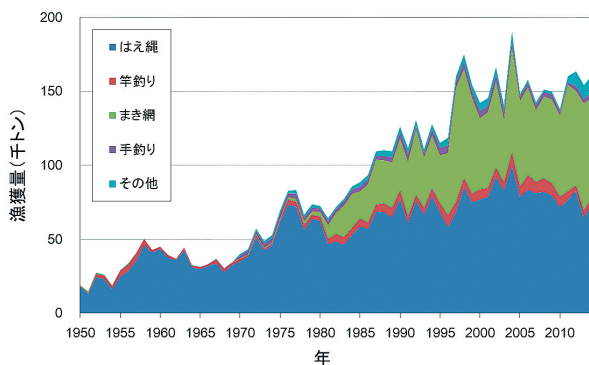
- ・メバチの漁獲量を 2001～2004 年の平均値から 40% 削減（2014 年から段階的に実施）

資源評価のまとめ

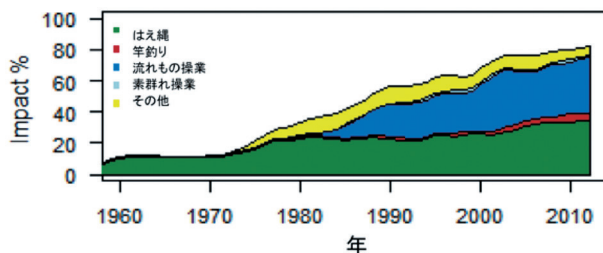
- 2014 年に統合モデル（Multifan-CL）により実施。
- 資源量は、近年（2008～2011 年平均）は限界管理基準値付近（SB/SB_{F=0}=0.20）にあり、乱獲状態にあり、低位、減少傾向。
- 近年（2008～2011 年平均）の漁獲圧は MSY レベル以上（F/F_{MSY}=1.57）。
- 最近年（2014 年）の漁獲量は 16.1 万トンで MSY（10.8 万トン）を上回り、過剰漁獲。

管理方策のまとめ

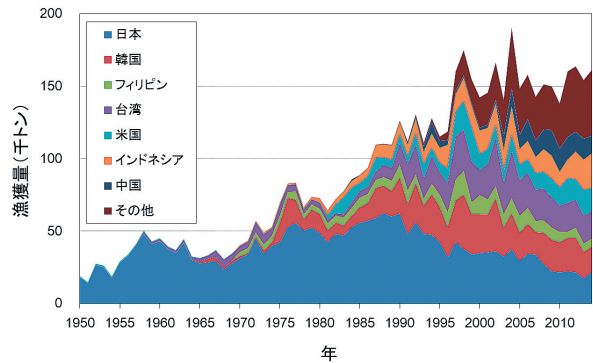
- 過剰漁獲状態にあることから、漁獲圧の削減。
- まき網漁業（熱帯水域）：FAD 操業の段階的な規制強化（2014～2016 年）、公海 FAD 操業の原則禁止（2017 年）、島嶼国以外のメンバーの保有隻数の凍結。
- はえ縄漁業：漁獲量を 2001～2004 年の平均値から 40% 削減（2014 年から段階的に実施）。



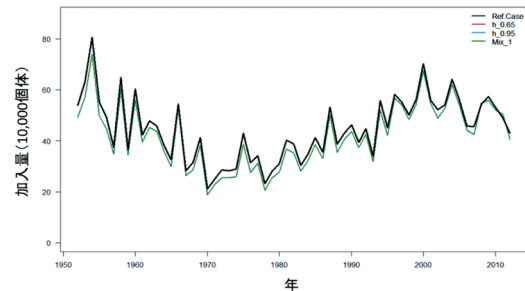
中西部太平洋におけるメバチの漁法別漁獲量の経年変化



中西部太平洋における漁業ごとのメバチ産卵資源へのインパクト
縦軸は漁業が資源を減少させた割合(%)を示したもの。はえ縄(緑)、竿釣り(赤)、まき網流れもの操業(青)、まき網素群れ操業(水色)、その他(黄)を表す。

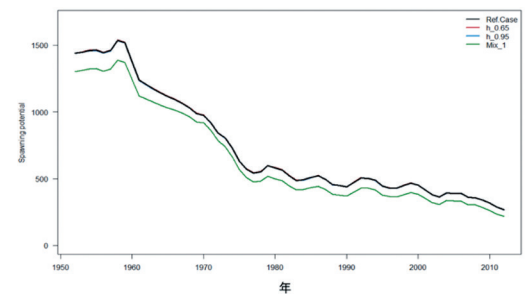


中西部太平洋におけるメバチの国別漁獲量の経年変化



中西部太平洋におけるメバチの加入量

縦軸は加入量(10,000 個体)、横軸は年で示す。黒実線がレファレンス・ケース。緑実線は標識魚群の混合する度合いが違う設定。赤と水色実線は親子関係が異なる設定（黒実線と同じ推定値のため、みえない）



中西部太平洋におけるメバチの Spawning potential

縦軸は Spawning potential（産卵親魚量、性比、年齢別成熟率、一回あたりの産卵量、産卵回数）の情報を考慮した、産卵可能指数）、横軸は年で示す。黒実線がレファレンス・ケース。緑実線は標識魚群の混合する度合いが違う設定。赤と水色実線は親子関係が異なる設定（黒実線と同じ推定値のため、みえない）

メバチ（中西部太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	13.8 万～16.4 万トン 平均:15.5 万トン(2010～2014 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.7 万～2.2 万トン 平均:2.1 万トン (2010～2014 年)
最新の資源評価年	2014 年
次回の資源評価年	2017 年